

令和7年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	4	氏名	平 下 尚 己 議員	1 / 1
発言項目				要 旨		答弁者
1	公立小中学校図書室の充実について			<p>近年、読書活動の大切さが改めて注目されている。特に小中学校の段階においては、「読書は学力の基盤である」とも言われ、文字や言葉に触れる機会の確保は極めて重要である。そうした中、市内の小中学校の学校司書の方や教員から、図書室の蔵書に関して様々な意見を伺う機会があったので、以下伺う。</p> <p>(1) 本市の小中学校における図書室の蔵書数及び更新頻度の現状について伺う。</p> <p>(2) 文部科学省が定める「学校図書館図書標準」との比較において、本市の整備状況がどのようになっているか伺う。</p> <p>(3) 人気のある本については、常に貸出中でなかなか借りられないという声も聞かれる。子どもたちの読書意欲を高めるためにも、同じ本を複数冊備える、いわゆる「複本化」の対応が必要と考えるが、市としての方針と対応状況について伺う。</p> <p>(4) 理科や社会科の学習にも活用される図鑑などの情報系図書は、常に新しい情報が求められる分野である。しかし、現場では「予算が限られており、古い図鑑を使い続けている」という声もある。こうした情報系図書の計画的な更新について、市としてどのような方針を持っているのか伺う。また、財政的制約の中でも工夫できることがあるのか伺う。</p> <p>(5) 小中学校の図書購入費は、どのように算出・配分されているのか。現場のニーズに応じた柔軟な運用ができているのか伺う。</p> <p>(6) 地域の図書館、保護者、あるいは企業や団体と連携して図書を充実させる取組は考えられないか。例えば、地域の書店との連携による寄贈型プロジェクトや、企業の社会貢献活動としての図書寄附など、地域ぐるみで子どもたちの読書環境を支える取組について、市としての可能性と姿勢を伺う。</p> <p>(7) ICTの進展により、電子図書の導入が全国の学校でも進んでいる。人気図書の同時貸出や、図鑑等の最新情報の活用という点で有効である。本市において、小中学校での電子図書の導入や試験的な活用を検討したことがあるのか。また、国や県の補助事業、教育用デジタルコンテンツ導入支援制度の活用を含めて、今後どのように取り組むのか、見解を伺う。</p> <p>(8) 電子図書の導入にあたっては、著作権者との利用契約やライセンスの取得が必要であり、単にデジタル化すればよいというものではない。しかし近年では、著作権処理済みの「学校向け電子図書サービス」が整備されており、これを活用することで安全に導入することが可能である。市として、これらのサービスの導入の可能性について検討したことがあるか。また、著作権上の課題や運用コストの面を含め、今後の導入についてどう考えているのか伺う。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長